(ベルリンでの一茶論議-その３(『信濃俳句通信』通巻216号-2003.03.10

俳句的なことがら（3）

ベルリンでの一茶論議 ― その3

中嶋 嶺雄

「子供と音楽」と題するベルリン国際シンポジウムの二日目は、世界的なチェリスト、ヨーヨー・マさんの実姉でヴァイオリニストのヨーチュン・マさんの実演つき報告などのあと、総括討論のセッションになって、私が議長をつとめた。すると、会場に才能教育研究会の理事もしていただいている神戸大学名誉教授の鈴木正幸氏が突然現れ、しばらくして発言を求められ、教育学者の立場から早教育の意義と限界について意見を述べられた。

議長として私は胸をなでおろす思いであったが、ここで鈴木（正）氏が昨日来の一茶論議を蒸し返されるのではないかとハラハラしたのである。というのは、鈴木（正）氏は、スズキ・メソードの子供たちがグランド・コンサートなどで一茶の俳句を朗読することに大いに批判的で、「一茶の俳句を皆で一斉に斉唱させることに強い疑問を感じました」と問題提起し（『才能教育』九六年夏号、参照）、才能教育研究会の内部で激しい論争になったことがあったからである。鈴木（正）氏が反対される理由は、才能教育が天才教育だと誤解されかねないことのほかに、〈あさやけがよろこばしいかかたつむり〉といった一茶の句は、子供には意味不明のかなり不道徳な句だというのである。

私は最近、鈴木鎮一先生が子供向けに「一茶百句俳句かるた」をつくられたときの文章と二万句もあるという一茶の句のなかから選ばれた百句を読む機会があったが、そこにはもとより、鈴木（正）氏が例示しているような句は入っていなかった。

（国際社会学者）

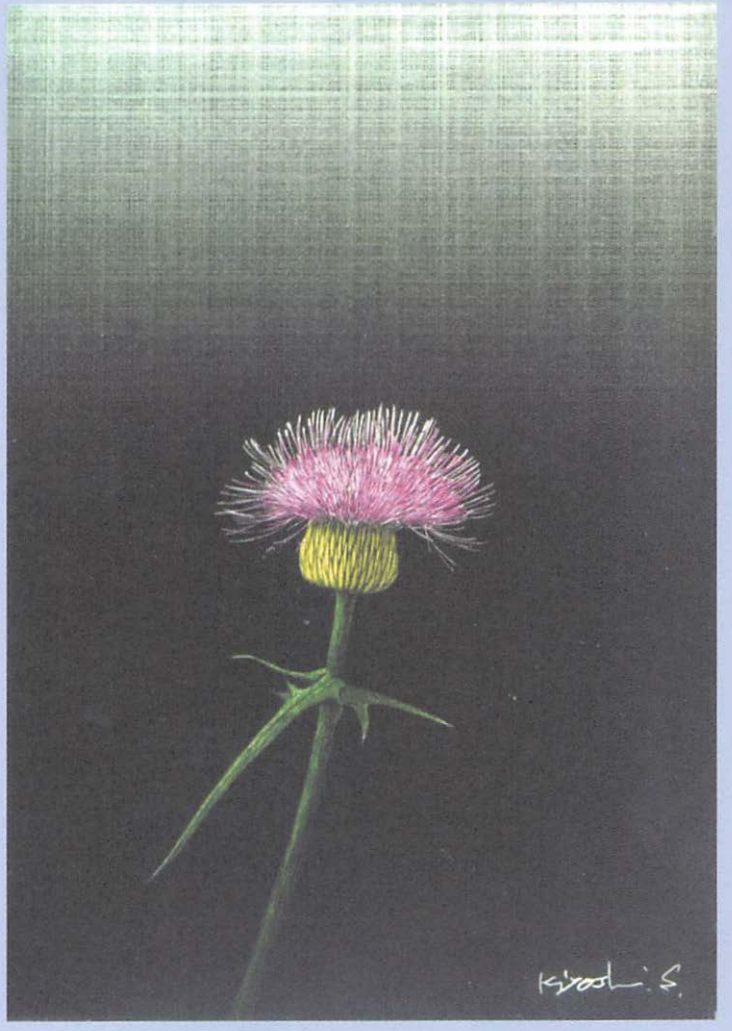
～目　次（216号）～

表紙絵　斉藤　清
題　字　佐藤　文子

俳句的なことがら（3）……中嶋　嶺雄
俳冠抄……1
風のロンド……2
臼杵仏……佐藤　文子　3
春光……笠原　千佳　4
俳句アングル……5
邂逅集……6
五句選……古畑　和・早川　里子・中沢　清子　17
梓集……18
信濃茶房……恒成　巧・塩川　洋子　25
風発……伊藤みち子　26
渓流……井口　葉月・赤羽　弘子　27
松永たけ子・平林　良　28
一句の衝撃……金田みずほ・石森　虚城・赤羽　幸信　29
一句一会……滝沢　増夫・御子柴弥生　30
青嶺集……38
青樹集……39
萌芽集……40
エッセイ……小手川正司　41
久女雑感（13）……増田　連　42
万華鏡……43
せせらぎ……高橋　美穂　44
初句会作品……45
風信子・文箱……

信濃俳句通信

平成七年四月十九日　第三種郵便物許可
平成十五年三月十日発行（毎月一回十日発行）
第十九巻第三号三月号（通巻二一六号）



2003　3月号